

「2022年中国・浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 (桐山美桜子)

今回のプログラムに参加するにあたって、私が最初の段階で学びたいと考えていたことは以下の2点である。一つ目は第二外国語であった中国語を学び将来的には実用することができるようになること、2つ目は中国の文化、芸術を知ることである。まず、一つ目については、プログラムのうちの語学の授業で非常に多く学ぶことができた。大学の講義では、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインであったことも相まってあまり話すことや聞くことを重視した勉強を行うことが出来なかったが、このプログラムでは実際に普段中国語を話されている先生の発音を聞き、私自身の発音を聞いていただけたことが特に有意義な体験であったと考える。発音方法や文法に関して多くの学びがあった。その上で、私自身の最終的な目標である、使える中国語を身につけるためには、より多くの単語を知ることが必要であることも知った。これからさらに学んでいきたい。またその方法について、学生交流の場において浙江大学の学生の皆様が日本語を学んだ方法に、多くの日本語を聞いたというものがあつたので、中国語をもっと理解するためにはより聞くことが重要であると学んだ。また二点目についてこのプログラムに参加する前、私は中国の芸術文化に特に興味を持っていた。今でもそれは変わらないが、プログラムの中で紹介されていた茶の文化にも興味を持つようになった。中国の茶文化は日本にも伝わり、日本茶の起源ともなっているため日本との関わりが特に深い分野である。このように中国文化は周囲の国々に大きな影響を与えたものが多いため、中国文化を知ることはアジアの文化を知るきっかけにもなるのではないかと思った。また、国際理解という面では今まで私が興味を以て調べることのなかった経済の分野にも興味を持つようになった。これからの社会はデジタル化、キャッシュレス化が進んでいくだろう。その先端に行く中国の仕組みをこのプログラムで知ることができ、とても興味深かった。特に今日では、新型コロナウイルス感染症の影響により日本でもこのようなデジタル化の流れが加速した印象を受けているため、中国のデジタル化がどのように進み人々に受け入れられているかを知ること、将来の日本の仕組みについて考えることができると考える。今回のこのプログラムへの参加は私の人生において初めての留学経験であった。新型コロナウイルス感染症の影響で実際に現地に行くことができなかったことは非常に残念であるが、オンラインであっても多くの学びがあった。特に実際に中国に住む方々から中国の文化や経済を学ぶことで、普段とは異なる視点から他国を見ることができたことがよかつたと考える。私が生きている日本という国は狭いのだということを実感し、世界を知る必要性を感じた。また、他の国の学生の皆様と交流することで、自分ももっと世界に目を向け行動していかなければならないという感情を新たにした。世界ともっとかかわっていくためにこれから更なる留学プログラムへの参加や、世界と関わる職業についても調べ、検討していきたいと感じた。